

史跡整備 史跡甲府城跡 ばしよ 甲府市丸の内 じだい 近世

史跡甲府城跡では、大手門に近接した内堀の復元整備のため、令和4年度から楽屋曲輪東面石垣の調査を実施しています。これまでの石垣前面の調査により、内堀に面した石垣は軟弱地盤上に立地していることから、根石の下に地盤改良や石垣の補強と考えられる桐木・枕木の設置および礫を充填した根切りがされていることがわかりました。



石垣後ろ側の様子

今年度は、石垣の背面構造を明らかにするための調査を行い、築石の後ろに裏栗層、盛土、地山と続く構造であることを確認しました。また、石垣下部では石垣前面と同様に、桐木・枕木と根切りを確認しました。

石垣維持管理事業

甲府城に残る石垣を守っていくために、全ての石垣を対象とした目視点検を年4回と、専門の石積み職人さんによる点検を実施しています。今年度も大きな異常を確認することなく点検を終えることができました。

令和7年度 文化財活用情報

今年度も、おかげさまでたくさんの方々にご参加いただきました。ありがとうございました！

文化財ウォーキングイベント

今年度は、文化財の魅力を知っていただくため、史跡甲府城跡や湯村山城跡、平瀬の烽火台、史跡銚子塚古墳など様々な場所でウォーキングイベントを開催しました！



平瀬の烽火台ウォーキングイベントの様子

甲府城でのウォーキングイベント発掘調査現場の公開も行いました



行ってみよう！“墳活”の旅～山梨・静岡・長野・新潟 古墳じまん大会～

山梨・静岡・長野・新潟と連携して、それぞれの地域の古墳の見どころなどを紹介し、理解を深めるためのシンポジウムを開催しました。また、古墳にちなんだクイズ大会も実施し、沢山の方にご参加いただきました！



シンポジウムの様子

出前支援事業

職員が県内の学校へ出張し、児童・生徒さんと縄文土器作りや勾玉作り体験等をおこなう、出前支援事業を実施しています。今年度も多くの学校にお邪魔し、歴史を肌で感じる体験をしていただきました！

出前支援事業や教材用考古資料の貸出は随時受け付けています。ぜひご利用ください。



児童のみなさんが真剣に縄文土器を作る様子



文化財をめぐるう



足元より下から
見えてきたもの

中谷遺跡（都留市）縄文時代の柄鏡形竪穴住居跡

【特集】 令和7年度発掘調査速報！

埋蔵文化財センターでは、今年度も多くの発掘調査を行いました。公共工事・大規模な開発事業がおこなわれる際の緊急発掘調査や、史跡の整備を目的とした調査により、着々と山梨の様々な「昔の暮らし」が地中から発見されています。

また、当センターでは私たちが行った調査・研究の成果を多くの皆さまに知っていただくためのイベントや学習支援も色々な場所で行ってきました。

今回の埋文やまなしは、令和7年度に発掘された最新の調査成果と文化財を活用した取り組みをご紹介します。

今回も埋文やまなしを読んでいただきありがとうございます！
気になる遺跡やイベントはありましたか？埋蔵文化財センターでは、発掘調査中の見学会や、発掘調査体験も実施しています。ぜひホームページをチェックしてみてくださいね！（み）

埋文やまなし 第74号
発行 山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923
☎ 055-266-3016
印刷 株式会社峡南堂印刷所

ホームページはこちら

令和7年度 最新発掘情報

大津天神堂遺跡

【ばしよ】 甲府市大津町 【じだい】 中世

大津天神堂遺跡は、令和5年度の発掘調査で15世紀後半の集落跡と16世紀代の田畠が見つかりました。今回の調査でも遺構の広がりをつかえることができました。中でも、幅3mもある溝から、集落の人々が使っていたかわらけ（小皿）や鍋、すり鉢といった土器や、下駄、曲物などの木製品が数多く出土し、当時の人々の暮らしが窺えます。また、今回の調査では、新たに石組みの井戸や木棺による墓が見つかり、集落の様子がより鮮明になりました。



多数の遺物が出土した溝



見つかったばかりのかわらけ

紹介する遺跡の場所



小井川遺跡

【ばしよ】 中央市布施 【じだい】 中世～近世

小井川遺跡は、これまでの6度にわたる発掘調査で、戦国時代の寺院跡や堤防跡、水路跡、江戸時代の墓などがみつかりました。今回の発掘調査では戦国時代末から江戸時代初め頃の水田が見つかりました。この水田の耕作面には、鋤（スコップのような形の農耕具）で掘り返した痕跡が数多くみつかりました。整然と並ぶ数多くの鋤の痕跡は、昔の人たちの所作を生々しく伝えます。



大量の足跡・鋤跡が残る水田跡

平田宮第2遺跡

【ばしよ】 中央市下河東 【じだい】 平安～中世

平田宮第2遺跡は、上窪遺跡の西側に位置する遺跡ですが、見つかった遺構はほとんど同じで、過去の5度の調査で平安時代から室町時代の田畠や集落を確認しています。過去の調査では断続的かつ重層的に土地が利用されていたことがわかっていますが、この地域で頻発した洪水や河川氾濫により削り取られてしまった場所が多く見られます。



検出した畑跡（平安時代中期）

今回の調査では、平安時代後半頃の畝跡が検出しました。畝跡は軸が異なる2つの畝で構成されており、幅が異なるのが特徴です。こうした事例を積み重ねて、平田宮第2遺跡の解像度を上げていきたいと思っています。

神明遺跡

【ばしよ】 笛吹市石和町小石和 【じだい】 中世・近世

神明遺跡は、新山梨環状道路の建設に伴い新たに見つかった遺跡です。これまでの発掘調査では、平安時代末頃や室町時代の遺構が見つかりました。今回の調査では、石組みの井戸や墓、土器が集積した遺構などが見つかりました。土器集積遺構は、かわらけ（小皿）だけが積み重なっているため、宴会の片付けやお祭りのお供えなどが想定されます。また、下層の調査では、平安時代末頃の竪穴建物跡が見つかり、約900年前から人々が暮らした土地であったことが明らかになりました。



土器集積遺構



石組みの井戸



位置関係図

上窪遺跡

【ばしよ】 中央市下河東 【じだい】 古代・中世

上窪遺跡はこれまでに12回の発掘調査が実施され、この地域一帯で飛鳥時代から室町時代にかけて田畠や集落などの土地利用が繰り返されてきたことが明らかになっています。今回の調査地点では、平安時代末から鎌倉時代初めの水田が見つかりました。直線的な畦で区画された長方形の水田が広がっていた様子を見ることができ、広大な田園風景が想起されます。発掘調査は現在進行中です。隣り合う過去の調査区では、さらに下層で田畠や集落が見つかり、発掘調査を通して、この地域に暮らした人たちの土地利用の変遷に迫っていきます。



12世紀頃の水田跡

中谷遺跡

【ばしよ】 都留市小形山 【じだい】 縄文・平安

中谷遺跡は、縄文時代中期から晩期（約4,000～2,500年前）の集落跡として知られています。今回の調査では、縄文時代に加え平安時代前半の集落も見つかり、遺跡南側を流れる高川上流に向かって集落が広がっていたことが明らかになりました。また、今回の調査で見つかった柄鏡形竪穴住居跡については、入り口（柄）部分で自然石を隙間無く敷いた様子がほとんどそのまま残っていました。特に、住居内へと繋がる部分では、小さな石で大きな平石を取り囲む繊細な石の配置が見られ、当時の人々のこだわりが窺えます。



住居入り口（写真右下）から住居内（写真中央）にかけての石敷き



柄鏡形竪穴住居跡 調査の様子



壁面に巨大な縁石を持つ柄鏡形竪穴住居跡